

筋 | 備 | 白 | 分 | の | 様 | 準 | 备 | て | 筹 | 备 | よ | う



第1章 自分の将来を考えよう

I 『働く』ということ

II 目標をもって

～自分自身を知ろう

III 雇用形態の違いを知っておこう

IV 雇用形態や学歴で大きく差がつく生涯賃金

V よりよい仕事につくため、進学という道もある



I 『働く』ということ・・・

皆さんは、義務教育が修了したり、高校を卒業したら、進学するのか、就職するのか今後の進路について考えなければなりません。いずれにせよ、自立して社会の中で社会人として生きていかなければならぬのです。自立する為には、いろいろな条件がありますが、もっとも重要なのは、“生きる為に必要なお金を、自分で働いて稼ぐことができる”ということだと思います。

そこで、「働くことについて」基本的な事を考えてみましょう。

『働く』とは



社会人となり 『職業』を持つこと

「社会人」とは、人と人が社会の中で生活を営みながら、『働く』という共通の手段をもって共存共栄していく一員であるということ・実社会の中で認められる存在のことです。

また、『働く』ということは『職業を持つということ』です。職業は多種多様あり、いかに自分に合った職業を選択できるかが、皆さん的一生を左右するほど重要なポイントになります。

自分に合った職業につくために必要なことは・・・

- ① 【自分の性格や特徴をよくすること】
- ② 【自分の適性をよくすること】
- ③ 【いろんな職業や業務内容をすること】

『働くこと』によってえられるものは?

- 働く場所がある・・・・・・・・・・・・就職先（職場）
- 賃金が発生する・・・・・・・・・・・・給料
- 社会的に信用が得られる・・・・・・・・信頼
- 生きがい・働きがい・・・・・・・・目標、夢

『働くこと』によって担うことは？

- 時間を拘束される……………勤務時間
- 会社（職場）に貢献する……………利益追求
- 仕事の責任を持つ……………プロ意識

◇このように、『働く』ということは、社会で生きていく一人としてたくさんの約束事で成り立っています。そして社会人になるといろいろな方面でルールやマナー、エチケットが必要になります。最初は、大変なことばかりでおもしろくないと感じるかもしれません、どんな仕事にも「達成感」や「やりがい」がきっとあるはずです。

◇仕事とは、あなたがしたことが、直接的または間接的に「誰かの役にたって喜ばれる」ことです。無駄な職業なんて一つもありません。また、働くことで大勢の人と知り合い、助け合いながら仕事を覚え、人として成長していくのです。

◇いざ社会に出る前に『働くこと』の大切さや、身につけておくべき常識などしっかり学んでおきましょう。



II 目標を持って ~ 自分自身を知ろう

『目標』とは、自分の行きたい方向への「道しるべ」だったり、自分のやりたいことの「ねらい」だったりします。目標がはっきりしないまま就職して、しばらくしてから「何か違う！」「やっぱり…自分のやりたいことと違う！」ということにならないように、自分の夢ややりたいことを打ち出し、自分の本当の気持ちや思いを明確にして少しでも早い時期から仕事に就く準備をスタートさせることが大切です。



★自分自身を知るために・・・

下記の1～5までの「自分ノート」を作つてみましょう。

★コラムの「自分ノート」を書いてみよう

1. 自分のプロフィール

- 名前、生年月日、家族構成など
- 趣味、特技、尊敬する人物、資格免許、自己アピール

2. 自分の長所と短所

- 自分が思う良い所と良くない所を書き出す

3. 自分の過去振り返り

- 幼児期から現在に至るまで年代別に書き出す
 - 【嬉しかったこと、楽しかった出来事】
 - 【嫌だったこと、辛かった出来事】

4. 他者からの評価

- 自分のことについて家族や先生、友人に書き出して(聞きだして)もらう
 - 【良いと思う所、良くないと思う所】
 - 【その人からのアドバイス】

5. 自己分析チェック

- 客観的に『今の自分』を書き出してみる

(例) Gさんの「自分ノート」~~~~~

1. 自分のプロフィール

- ・名前：岐阜 花子 (16歳)
- ・生年月日：平成〇年〇月〇日
- ・趣味：テニス
- ・特技：ピアノ
- ・尊敬する人：松下幸之助
- ・自己アピール

中学の3年間、テニス部で頑張ってきた。思うように試合では勝てなかつたが、負けず嫌いの性格なので、試合の反省をバネにして、人よりもテニスがうまくなるように頑張った。体を動かすこと、友人と話すことが好き。

2. 自分の長所と短所

(1)自分が良いと思うところ

性格が明るく、人と話すことが好き、何にでも興味を示す→好奇心旺盛、社交的。

(2)自分が良くないと思うところ

思いどおりにならないとすぐにムッとする。短気。せつかち。

3. 自分の過去振り返り

(1)嬉しかったこと、楽しかったこと

幼稚園の発表会で女の子の役をやつたときに好評だった。小学校での運動会。中学2年の夏の中体連で、市で準優勝して地区大会に出場したこと。

(2)嫌だったこと、辛かったこと

小学校の5年の時、家の事情で引っ越しをしたこと。友人と喧嘩をして、仲が険悪になったこと。

4. 他者からの評価

- ・友人からは、明るくて話をしていて楽しい、プラス思考、立ち直りが早いと言われる。その反面、せつかちなところがあり、人の話を最後まで聞いていないとも言われる。そのことで、誤解をしやすいので、落ち着いて人の話を聞くように注意される。

5. 自己分析チェック

- ・現在は、楽しく高校生活を送っている。卒業後は就職を考えている。自分に向いてい る職業が何なのか、具体的にやりたい仕事などがはつきりしていない。

(例) Gさんの「自分ノート」をもとに就職目標をたててみましょう～～～～

1. 自分の性格や特技から向いている職業を考える

(例) 性格 : 明るい おしゃれ、人と話すことが好き、やや短気

特技 : テニス、ピアノ

明朗活発でスポーツマン精神がある。

↓
接客業向き

↓
向いている職業 【営業/販売業】

2. 【営業/販売業】について調べてみる

【営業】 (職種)会社、団体、個人などの取引先に向けセールス活動

(種類)自社製品、保険、広告、リース/レンタルなど

(重要)顧客のメリットを追求し、提案をして契約を取り会社の売上に貢献

【販売業】 (職種)店舗で接客をして、販売に繋げる活動

(種類)デパート、車/電化製品、ブティック、化粧品など

(重要)会話や気配り、スムーズな対応で顧客に満足感を持たせて販売に繋ぐ

3. 2のむいている職業と自分の適正を比較して考えてみる

(例) 2つの職業を比較してみて、自分はファッションに興味があるので販売業に向いているような気がした

4. 3の結果をもとにより具体的に調べる

●販売業の中でも特にやってみたい種類を探してみる

●地元と県外をみてみる

●会社名をピックアップしてみる

5. 4の結果をもとに就職するための目標を作る

●就職したい会社はどんな人材を求めているのか?

●就職するための必須条件を目標に置き換え努力する

III 雇用形態の違いを知っておこう

職場で働くにあたり、自分がどのような雇用形態なのかを確認しておくことは非常に大切です。一般的には「正社員」のことを正規社員、「契約社員」「派遣社員」「パート・アルバイト」のことを非正規社員と言います。雇用期間を定めた雇用契約を結んでいます。雇用形態の違いを知らないでいると、思わぬところで後悔する可能性もあります。仕事を決める時、入社の際は就業規則や雇用契約書の内容を必ず確認しましょう。

◎正社員と非正社員の一般的な分類

項目	正規社員	非正規社員				
区分	正社員	契約社員	パートタイマー	アルバイト	派遣社員	
契約期間	定めなし		定めなし			
			有期契約			
就業時間	会社で定める 始業・終業時間	正規社員と同じ場合もあるが、契約により正社員より短いことが多い				
社会保険	法人のみ加入義務あり	一定の条件を満たせば加入義務がある 基本は自分で国民健康保険に加入				

1. 正規社員（正社員）

●フルタイム以上の労働（残業を含む）形態は雇用期間の期限は無く（終身雇用）、福利厚生も充実している労働者で、賃金形態は年功序列型が一般的でしたが、最近では実力主義の会社がふえています。正社員というと社会的な信用が高い傾向にあります。

2. 非正規社員（契約社員、派遣社員、パート、アルバイトなど）

●雇用期間が決められており、短期の契約が多く、契約期間をその都度更新しなければなりません。雇用が不安定で、給与が少ない（例：時間単位当たりの給与が低い、賃金はおおむね時間給や日給で精算、退職金がない、ボーナスがない）、のが特徴です。

①契約社員 →高度な技術や専門的な知識を持つ労働者が、おおむね1年契約で働く形態のことです。

②派遣社員 →派遣会社に登録し、派遣会社から勤務先に行って働く形態のことです。

③パートタイマー →同一事業所内で雇用されている通常の「正社員」より労働時間が短い労働者のことです。

④アルバイト →正社員と比べて短期間かつ低賃金となる傾向が強い。一般的には期間の定めのある契約に基づき雇用される従業員のことです。アルバイト労働者を“フリーター”と呼ぶこともあります。

~~~~~高校生のアルバイトについて~~~~~

- ・労働基準法第 56 条により、15 歳の誕生日から最初の 3 月 31 日を超えた日から、アルバイトをすることができます。  
22:00 以降の深夜労働、時間外労働が禁止されており、危険有害業務については就業制限があります。高校生は未成年なので、学校と保護者の許可が必要となります。

~~~~~



IV 雇用形態や学歴で大きく差がつく生涯賃金

- 人が一生のうちに稼げるお金のことを「生涯賃金」といいます。学校を卒業して就職し、定年退職するまでに受け取る賃金の総額のことです。

- 正社員と非正社員の格差について

【表1】 「賃金構造基本統計調査」（厚生労働省）

比較項目	平均年収	生涯賃金
正社員	489万円	2億4221万円
契約社員	266万円	1億4800万円
フリーター	106万円	6176万円

【表1】では、正社員と非正社員の間には、ほぼ2倍の年収の開きがあり、生涯賃金で1億円もの開きがあることがわかります。正規雇用に比べて非正規雇用は昇給や賞与、退職金がない、あるいは少ない分「生涯賃金」に大きな格差ができます。

安定した給料と待遇、福利厚生のある正社員に対して、契約期間が終われば「契約更新がないかもしれない」という不安定な雇用関係の非正社員では、賃金に関する問題以外にも将来に渡るライフプランが立てられないということがあります。また、こうした非正社員より悲惨だといわれているのがフリーターであり、35歳を超えると働き口すらなくなるという現状があります。ここ数年、その日暮らしの帰る家もないネットカフェ難民や、ネットカフェに行くお金もないハンバーガーショップ難民も増えており、彼らの存在が日本の格差社会の現状を表わしているともいわれています。

●学歴による生涯賃金の比較(正社員の場合)

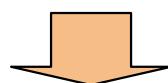
【表2】

()内は同一企業で定年まで勤務(転職なしの場合)

平均生涯賃金一覧		
	女性	男性
大学・大学院卒	2億1,540万円 (2億5,520万円)	2億7,590万円 (2億9,450万円)
高専・短大卒	1億6,590万円 (2億1,530万円)	2億2,120万円 (2億6,340万円)
高卒	1億2,650万円 (1億8,990万円)	2億580万円 (2億5,910万円)
中卒	1億1,040万円 (1億4,800万円)	1億8,400万円 (2億1,550万円)

『ユースフル労働統計—労働統計加工指標集—2008』より

【表2】の平均生涯賃金をみてみると、男性・女性とも学歴が高くなるほど生涯賃金が高くなる傾向にあります。また、カッコ内の数字をみると、同一企業で働いた人の方が、転職を経験した人よりも、生涯賃金が高いと言えます。それは、従来日本では勤続年数が賃金に反映されるケース多いため、転職を経験すると過去の勤続年数が一度リセットされる結果、転職を経験した人よりも、同一企業で定年まで勤務した人の方が総賃金は高くなる場合が多いです。



このことから、出来る限り進学をして、「正社員」で働くこと、転職せず長く継続出来る仕事につくことが望ましいと言えます。



V より良い仕事につくため、進学という道もある

進学は、職業の選択肢を広げる！

- 義務教育終了後(中学卒業後)、高校に進学、高校卒業後に大学や短大、専門学校へ進学する人がふえています。中学卒業での就職は、求人も少なく職種も限られ大変厳しいものがあります。この現状から、出来る限り進学して、学歴や資格を持って就職にのぞめば、職業の選択肢が広がり、あなたがやりたい仕事に対する確率が高くなります。(普通自動車免許を取得しておくことも就職には有利です。)
- 実際、進学して、一人暮らしをしていくことは容易な事ではありません。下記の表のようにアルバイトなどをして学費と生活費をまかなっていかなければなりません。そこで、国や自治体などの公的な機関、民間の財団などが実施している「奨学金・就学助成制度」を利用するなどして、資金計画、生活プランをしっかりと立てましょう。

進学した場合の一人暮らしにかかる費用の例(アルバイト 8万+奨学金2万円)

1カ月の収入 100, 000 円の場合				
バイト①	30, 000	◎完全固定	家賃	35, 000
バイト②	50, 000	○ほぼ固定	水道光熱費	3, 500
奨学金の一部	20, 000	△多少変動	食費	18, 000
		△	通信費	5, 000
		◎	健康保険・国民年金	24, 000
		△	教材	5, 000
		△	交通費	3, 000
		△	日用品	2, 500
			おこづかい	4, 000
収入	100, 000		支出	100, 000

※『奨学金・就学助成制度』とは……

大学の学費は私立大学文系で4年で総額400万円、短大や専門学校2年で総額200万円ほどかかります。進学に必要な資金を提供し、進学者を経済的に支援するものを『奨学金・就学助成制度』といい、国や自治体などの公的機関や民間の財団などが実施しています。返済義務のない給付制と返済義務がある貸与制の2種類があります。申込条件、期限、返済義務のある制度は返済条件をよく調べ計画的に利用するのもよいでしょう。併用できる制度もあるので、施設の先生と相談してみましょう。

★各種奨学金、就学助成制度 ⇒コラム参照